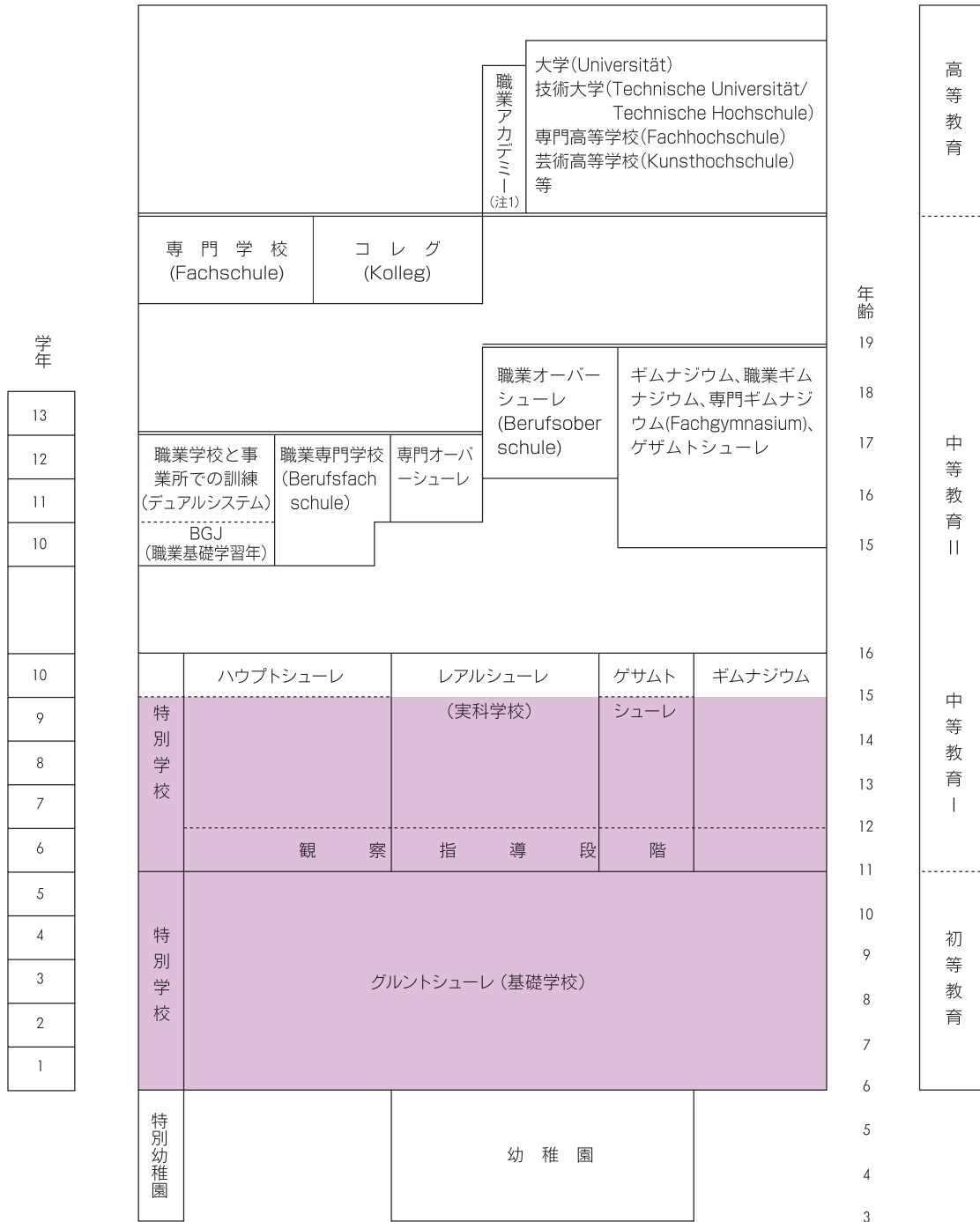


原則的にアビトゥーア取得者はどこの大学にもどの学部にも入学できるとされる。学校の人気は日本やフランスのように集中していないのがドイツの高等教育の特徴になっている。

競争率の高いところ(一部の医学部などといわれる)

は、入学希望者に対して入学制限するが、学生の選定は、①アビトゥーアの成績、②待機期間の長い者(入学を待てば[「待機」]、自動的にその順位が繰り上がる。結果として大学入学生をますます高齢化することに貢献している。)で行われる。

〈図1-12〉ドイツの学校系統図



資料出所 連邦教育研究省 “Grund- und Strukturdaten 2003/2004”

(注1) 職業アカデミー (Berufsakademie)

(■) 部分は義務教育

大学の大半が公立(州立)で授業料が原則無料(2005年から、授業料制度を導入中)であることもあって、大学での修了までの平均在学期間は6年(12学期)といわれ、国際的にみてかなり長いと指摘されてきている(2003/04年冬学期には、総数200万を超える学生のうち、約144万人が総合大学またはそれと同等の大学に在籍していた。)

2005年9月の連邦統計局の発表では、2004年の大学卒業(見込)者の平均年齢は27.9歳であった。

〈表1-36〉一般学校の種類別生徒数

学校の種類	(千人)		
	2001/2002 学年	2002/2003 学年	2003/2004 学年
グルントシューレ	3,212	3,144	3,147
ハウプトシューレ	1,114	1,111	1,093
レアルシューレ	1,278	1,283	1,297
ギムナジウム	2,284	2,297	2,316
計	9,870	9,780	9,727

資料出所 連邦統計局ホームページ

〈表1-37〉普通学校の生徒数の長期的推移

(千人)

年	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1995	2000	2002
グルントシューレ	3,096	3,453	3,977	3,913	2,773	2,256	2,535	3,386	3,634	3,353	3,144
ハウプトシューレ	2,122	2,113	2,370	2,512	1,934	1,333	1,054	1,076	1,124	1,104	1,111
レアルシューレ	431	571	886	1,174	1,351	1,049	865	1,039	1,175	1,263	1,283
ギムナジウム(5~10学年)	642	761	1,062	1,395	1,496	1,110	1,053	1,315	1,546	1,605	1,639
ギムナジウム(11~13学年)	212	197	304	456	624	639	497	549	619	652	658

資料出所 連邦教育研究省“Grund- und Strukturdaten 2003/2004”

(注) 1990年以前は旧西ドイツの数値。

〈表1-38〉高等教育の機関別学生数

(人、%)

計	大学	専門高等学校
1,868,666	1,382,261	486,405
構成比	74.0	26.0

資料出所 文部科学省「諸外国の高等教育」(元データ：連邦統計局“Bildung im Zahlenspiegel 2003”)

(2) 資格制度

各学校の卒業資格は上級学校の進学等にそれぞれ評価され、より高位の教育機関への進学の要件となっている。

例えばアビトゥーア(前述)取得者は、大学へ入学できる。

また、「デュアルシステム」(後述)に参加してその職種に関する修了試験に合格した者も、その結果(「資格」)は後の社会生活—就職などで評価される。

このデュアルシステムを修了した者に関しては、手工業においては、将来引き続き研鑽を積むことで、(養成訓練生を雇うことのできる)中小(個人)企業の経営者としての性格を有する独立のマイスターに進む途が開かれている。

(3) 就職(主要就職経路)

ドイツでは、ハウプトシューレ(前述)、レアルシューレ(前述)、職業学校(後述)をそれぞれ卒業してすぐに実社会で勤め始める例が多い。

高等教育に進学しない者の多くは、職業養成訓練契約を企業と締結して企業での見習い就労を行い(同時にパートタイムで職業学校にも通学するので、これを「デュアルシステム」と呼ぶ。)、職業養成訓練契約の修了後、就職していく(必ずしも職業養成訓練を実施した事業主に就職すると決まっているわけではない。)(後述4の(2)職業訓練参考)。

一方、高等教育機関への進学希望者が主に進学するギムナジウム(前述)へ進学した者の多くは、アビトゥーアを取得して大学に入学する。学生の多くは、大学卒業と共に就職するが、長い在校期間中に企業でのインターン活動を行う者も多いとされる。他の日本以外の先進国と同様、新規学卒の一括採用の習慣がドイツにないので、就職に熱心な者は、在学中卒業に先立ち就職活動を行うが、そうでない者は、卒業後、漸次就職していく。